

集会記録

第9回日本歯科医史学会総会

(昭和56年度学術大会)

日本歯科医史学会は去る昭和56年10月31日(土)、城西歯科大学中尾俊一教授が準備委員長となり、城西歯科大学多和敏一学長を学会会長とし、昭和56年度学会総会並びに第9回学術大会(第9回日本歯科医史学会総会)を同大学3階大講義室において行った。

当日は10月にしては冬を思わせる寒気のただよう日ではあったが、斯学に熱心な人々の参加により、一般演題14、特別講演1、会長講演1の計16題を午前10時から午後4時30分までの間に盛会裡に終了した。

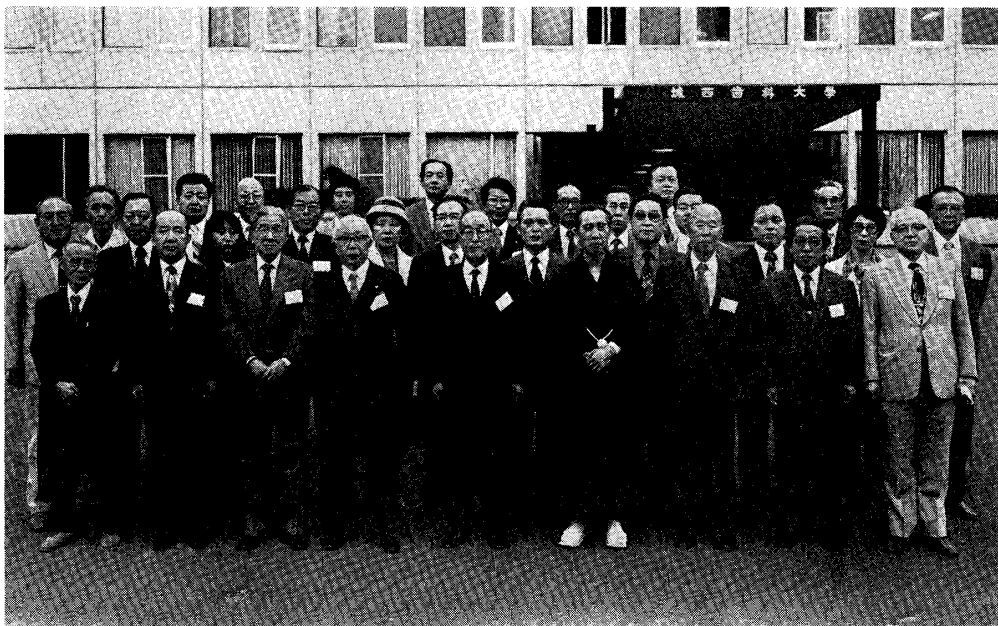
これは多和学会長をはじめ中尾、橋本両教授の周到なる準備に対する御努力と、口腔衛生学教室及び理工学教室の両教室員各位と城西歯科大学あげての御協力の賜物であると思われ、ここに深く感謝申し上げる次第である。

なにしろ、本学会は他の学会に比較し斯学の有する特殊性からして極めて地味であり会員数も少

ないが、この日のために前日より宿泊し参加されたという極めて熱心な会員もあり、また交通の不便さを考慮され午前10時から午後4時30分の間に16の演題と記念写真撮影また昼食時間を使用しての役員会の開催など時間の配分に準備委員は大変御苦労なされたということがうかがわれ、この心づかいに対して厚く感謝申し上げる次第である。

特別講演は高麗神社宮司の高麗澄雄氏による「高麗郷の由来とその歴史」と題し、まず坂戸市のあたりは入間郡の郡家が置かれた可能性が強く、隣接する日高町、飯能市のあたりは、その昔高麗郡と称したが明治29年この由緒深い郡名が廃止され、更に明治30年の町村合併にあたり、この高麗という名称までが消失してしまったとのことである。

奈良時代の716年に駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野7ヵ国在住の高麗人1,799人を武蔵国(埼玉県)に移して高麗郡が置かれ、郡の中心であった現在の日高町周辺を高麗郷と称した。当時、朝鮮半島の高麗、百済、新羅等の人々は先進的な技術をもって日本に移住してきた。特に高麗人は養蚕をはじめ農業の先進的技術をわが国に導入し、普及せしめた。そして長らく国事に尽力した功績が文武天皇によって認められ、中で



日本歯科医史学会 第9回 学術大会

も高麗の王族であり、優れた人物であった高麗人王若光は従五位の位を授けられ、さらに王姓を賜わり高麗郡の統治を一任されたとのことである。

王若光没後郡民がその徳を偲びその霊を祀ったのが現在の高麗神社である。祭神である高麗王若光の子孫は代々この神社の宮司をつとめ演者は59代目にあたるといふ。

日本に渡来してきた高麗人と彼らが日本、とくに埼玉県坂戸市を中心とした地域に及ぼした影響の歴史と由来を中心に述べ、会員に深い感銘を与えた。特に演者は前日の夜に韓国から帰国され特別講演をなされたことを附記し心から感謝を捧げたい。

会長講演は長期間にわたり学生課を通し学生の厚生補導に尽くされた多和敏一会長による「戦後大学の厚生補導の歩み」で、まず明治4年(1871)文部省が設置され、翌5年に学制の公布されたのがわが国の近代学校教育の曙であるという歴史的事項からはじめられた。次いで学生補導の歴史に移られたが大きく分けて第2次世界大戦以前の学生補導とくに昭和3年文部省に学生課が設置されたことと敗戦以後の時期、特に昭和22年大学規準により厚生指導の行われたことに分けられると述べ、特に第2次世界大戦後の占領下における学生厚生補導と米国使節団による厚生補導の助言と担当教職員の大学教育の場での立場が重要視されてきたことの大きさを強調された。その後、昭和24年新制大学に学生課が設置され、次いで昭和26年に平和条約、日米安全保障条約が調印され、多くの大学も整備され、教育方針も認識され、学生の中にも大学意識が生まれるようになってきた。

一方、学生運動は社会大衆の指導的立場の運動から学園を基盤としての教育にかかわる問題を中心として学生全体の運動として進んできた。しかし昭和43年には学生運動史上に残るかの学園闘争が遂におこった。この学生運動により、一層学生厚生補導の認識と変遷が行われるようになり今日に至っていると、永い間この学生補導に尽力されてきた先生ならではの意義ある会長講演であって、ここに深く感謝を申し上げるとともに今後とも我々後輩のご指導を切にお願い申し上げる次第

である。懇親会は絨氈の敷かれた学生食堂において誠になごやかな雰囲気の中に行われた。なお、昭和57年度学術大会(第10回日本歯科医史学会)は新しい東京歯科大学において行われることに決定したので本年同様に多数のご参加を願って学会報告としたい。

(日本大学松戸歯学部 谷津 三雄)

会 報

昭和56年度第9回日本歯科医史学会総会及び学術大会については、谷津理事の報告にある通り、城西歯科大学で学会長、学長多和敏一、準備委員長中尾俊一教授のお世話で無事終了しました。

◇昭和57年度第10回日本歯科医史学会総会及び学術大会について。

昭和57年度第10回の総会及び学術大会は千葉市真砂町 2-1-1 東京歯科大学で開催の運びとなっています。

大会会長 高木圭二郎先生

準備委員長 長谷川正康先生

をお願いすることになりました。いずれ近々演題募集その他が始まる予定ですので皆様多数ご応募下さいますようお願い申し上げます。

□11月例会 129 回

会場：モリタ本社事務所ホール

1) 原田朴哉について 本間 邦則

2) 吹きこみ法から用手的人工呼吸法へ
谷津 三雄

□1月例会 130 回

会場：モリタ本社事務所ホール

1) ゲーテと顎間骨 本間 邦則

2) 文部省明治7年2月刊
百科全書医学篇について 谷津 三雄

3) 歯科開業要訣 谷津 三雄